

◆◆ 会員大会次第 ◆◆

開催日／令和6年9月12日（木）
会 場／札幌パークホテル
3階『パークホール』

■ 会員大会 ■

15：00～16：30

司会：高橋 恭子

開 会				
会 長 挨拶	会 長	文 挾 誠一		
来 賓 挨拶	国土交通省 北海道開発局営繕部長	滝本 悦郎 様		
	北海道知事	鈴木 直道 様		
	札幌市長	秋元 克広 様		

基 調 報 告

1. 「多様な人材が“いきいきと”活躍する
魅力と活力あふれる電設業界を目指す！」

池田 洋基（人材委員会 委員）
・（日昭電気株式会社 代表取締役社長）

2. 「ゼロカーボン北海道に向けた再生可能エネルギーの動向」

中村 匡秀（一般社団法人北海道電業協会）
・（北海道電気工事株式会社 GXソリューション部長）

大会決議採択

提案説明 運営委員会委員長 土屋 忠巳

閉 会

◇◇ 記念講演会 ◇◇

16：45～17：45
札幌パークホテル
3階『エメラルド』

司会：高橋 恭子



演 題

『三流シェフ・70歳からの挑戦』

シェフ

三國 清三 氏

講師紹介

【略 歴】

1954年 北海道増毛町生まれ。
15歳で料理人を志し、札幌グランドホテル、帝国ホテルにて修業。
1974年駐スイス日本大使館の料理長に就任。大使館勤務の傍ら、フレディ・ジラルデ氏に師事。その後、ヨーロッパの三つ星レストランで修業を重ね、1985年東京・四ツ谷にホテル・ドゥ・ミクニを開店。2015年フランス共和国よりレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを日本の料理人で初めて受勲。2019年「JAPONISÉE Kiyomi Mikuni」を出版。2022年幻冬舎より「三流シェフ」を出版。2023年11月プロデュース店、麻布台ヒルズDining33をオープン。現在、子どもの食育活動や、家庭でできる手軽なレシピをYouTubeで発信している。

◆◆ 令和6年度 会員大会 出席予定者数 ◆◆

令和6年8月19日現在

区分	大会	講演会	懇親会	見学会		ゴルフ
				Aコース	Bコース	
北海道	74	71	72	2	3	6
東北	25	25	24	2	5	8
北陸	24	24	24	1	0	3
関東	142	147	152	11	8	46
東海	20	20	19	1	2	11
関西	66	66	52	2	0	13
中国	62	61	61	6	4	19
四国	18	19	24	2	2	4
九州	35	35	33	2	4	9
沖縄	2	2	2	0	2	0
招待者等	24	20	30	0	1	1
合計	492	490	493	29	31	120

見学会

- ・ Aコース 北海道の新名所と歴史を体感する旅
- ・ Bコース レトロな港町小樽・余市ワインを満喫する旅

会員ゴルフ大会

- ・ 札幌国際カントリークラブ 島松コース

912

ご来賓名簿

国土交通省 北海道開発局			
	宮繕部長		滝本 悦郎
	宮繕部 宮繕整備課設備技術対策官		齊藤 英生
	宮繕部 宮繕整備課宮繕監督官		古山田 章宏
北海道			
	知事		鈴木 直道
	建設部 建築企画監		大野 雄一
	建設部 建築局施設整備・脱炭素化担当局長		櫻田 秀幸
	建設部 建築局建築設備課設備・環境担当課長		早坂 隆志
札幌市			
	市長		秋元 克広
	都市局長		釜石 陸由
	都市局 建築部設備担当部長		齋藤 健
経済産業省 北海道産業保安監督部			
	部長		小泉 朋幸
	電力安全課長		丹羽 毅之
北海道電力ネットワーク(株)			
	取締役社長		細野 一広
関係団体			
	東京都電設工業企業年金基金 専務理事		眞方 和彦
	北海道電気工事業工業組合 理事長		小野寺 涼一
	札幌電気工事業協同組合 理事長		鈴木 曉彦
	(一社) 札幌電設業協会 相談役		加藤 定義
	札幌弱電設備業協同組合 理事長		下出 浩
	北海道電気資材卸業協同組合 理事長		三神 司
	(一社) 日本配電制御システム工業会 北海道支部長		石田 俊平

(敬称略・順不同)

令和6(2024)年度 会員大会決議

新たな電設業界の構築に向けて
第四次 アクションプランを始動させよう！

令和6年9月12日(木) 札幌市



一般社団法人 日本電設工業協会
Japan Electrical Construction Association

大会決議 2024年度

第四次 アクションプラン(2024-2027) 初年度の提言

新たな電設業界の構築に向けて
第四次 アクションプランを始動させよう！

第四次 アクションプラン(2024-2027)

I. 三つの心構え



- 主張すべきことは、主張しよう
- 疑問に思っていることは確認し
解決しないなら提言しよう
- 課題解決のためには
他の組織とも連携しよう

II. スローガン



多様な人材が“いきいき”と活躍する
魅力と活力あふれる電設業界を目指す！

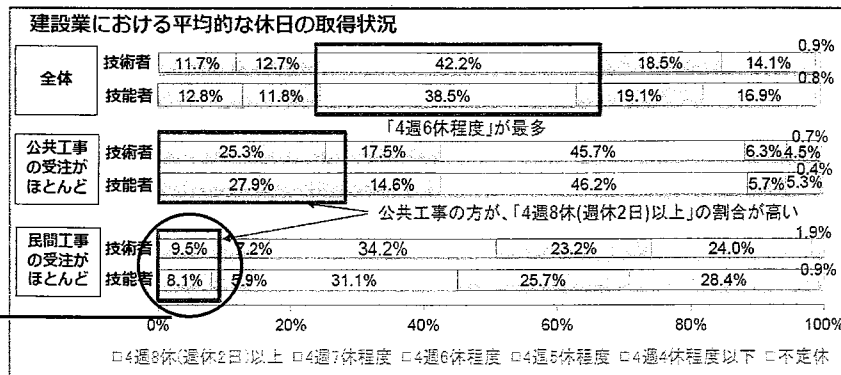
参考資料

① 「4週8休」の状況

○ 建設業での時間外労働時間の上限規制開始前の休日の取得状況

技術者等の週休二日の取得状況の調査結果を見ると、令和5年調査では民間工事の受注がほとんどの場合に4週8休は1割以下であり、担い手確保には「4週8休」は必須です。

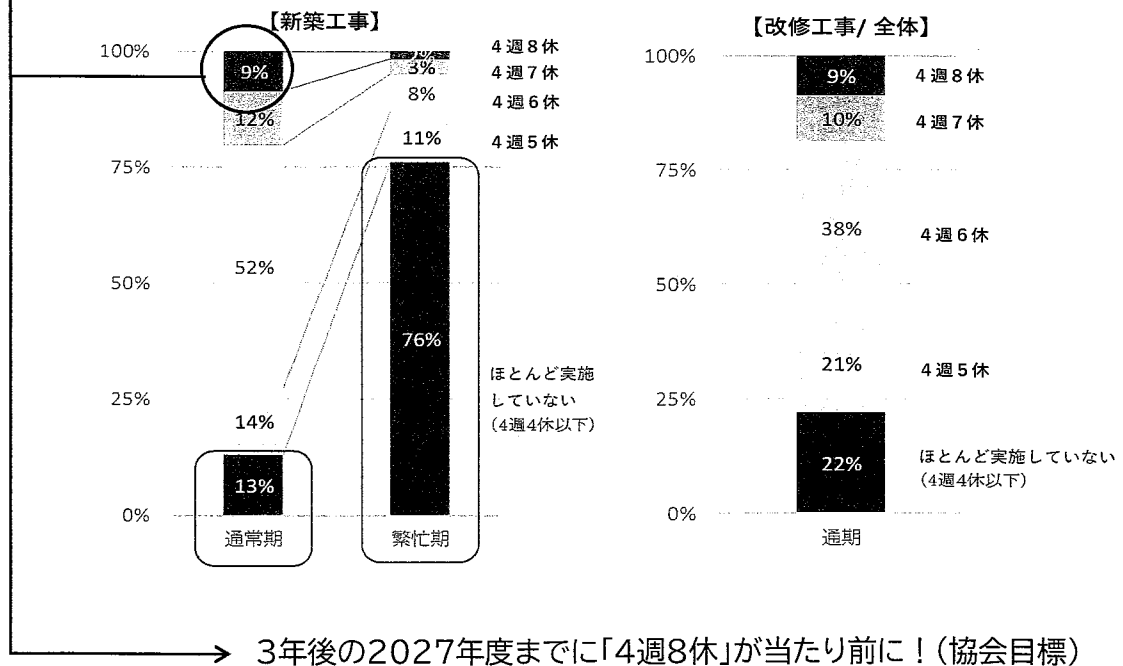
【国土交通省調査 工事全般の結果】



技術者・技能者ともに4週8休(週休2日)の確保ができていない場合が多い。

国土交通省:「適正な工期設定による働き方改革の推進に関する調査」(令和5年5月31日公表)

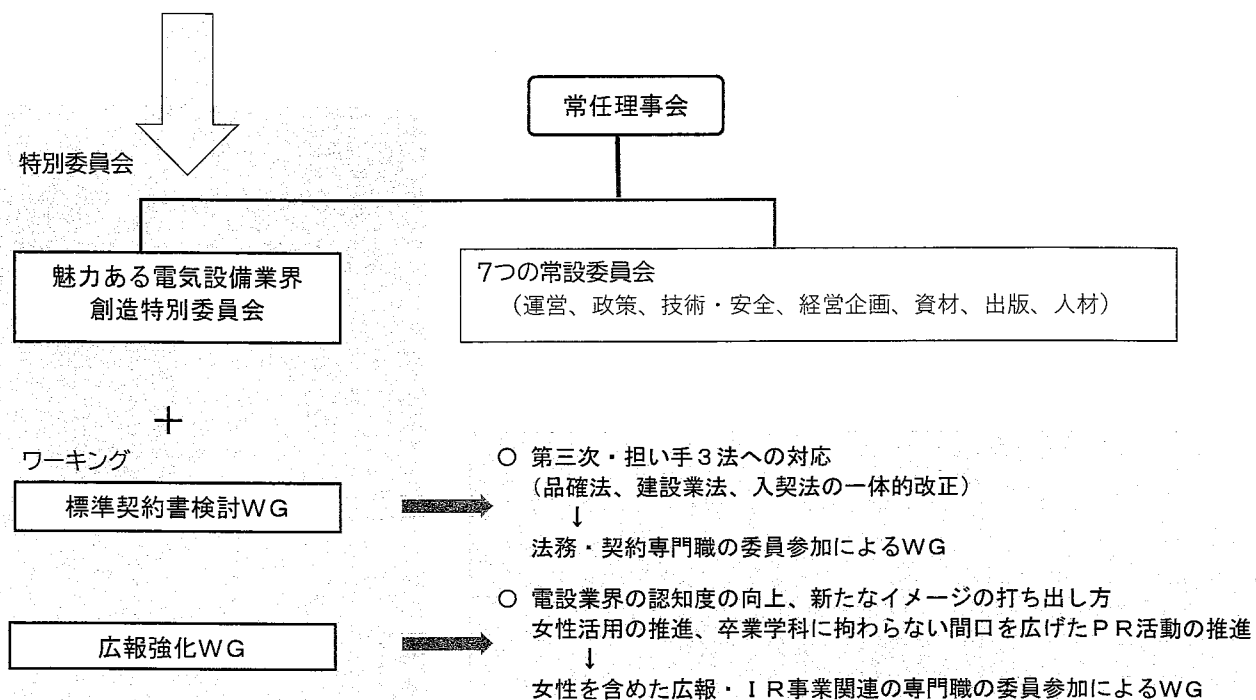
【当協会の昨年度調査の結果】



② 電設協 人材の多様な確保策

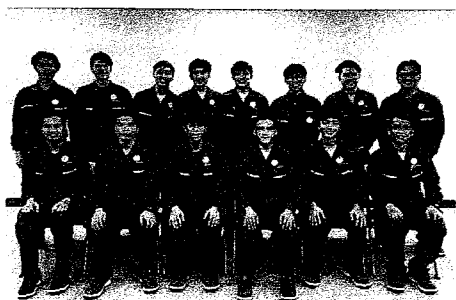
○ アクションプランの実行組織として、特別委員会とワーキングを設置

新たな業界創造に向け、7つの常設委員会に加え、今回、特別委員会およびワーキングを設置し、各委員会が横断的かつ継続的な取り組みを推進します。



○ 特定技能制度を活用した外国籍社員の採用について (当会員の(株)関電工様での事例紹介)

これまで、外国人電気工事技能職を受け入れる制度はありませんでしたが、電気工事も新たな在留資格「特定技能制度」において2022年8月から対象になったことを受け、建設分野の「特定技能1号」試験に合格した14名のフィリピン国籍の技能労働者が屋内線技能職社員として採用された。



③ GXの進捗状況と今後の道行き

G (=Greenの略称) : 環境を指す。

X (=Transformationの略称) : 変革や変化を示す。

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、建築物の運用段階におけるCO₂排出量（オペレーショナルカーボン）の削減に寄与する創エネ・省エネ・蓄エネ技術やエネルギーマネジメントシステムへの取り組みを協会、会員自身の事業活動に積極的に組み入れ進める必要があります。

GXの進捗状況		【参考】GX投資支援策の主な実行状況
革新技術 開発	既に1兆円 規模を措置	・脱炭素効果の高い革新的技術開発を支援する「グリーンイノベーション基金」による代表例： ①次世代太陽電池（ペロブスカイト）について開発を進め、25年から市場投入 ②水素還元製鉄について実証機導入は26年から開始 ③アンモニア専焼に成功し、マレーシアで26年から商用化（MOU締結）等 ※ アンモニア船のR&D支援（加えて、ゼロエミッション船等への生産設備支援）あり。 ・革新的GX技術創出事業（GteX）により大学等における基盤研究と人材育成を支援 ・電力消費を抜本的に削減させる半導体技術（光電融合）の開発支援 等
	10年間で 1兆円～	
次世代再エネ		年間数兆円規模の再エネ導入支援策（FIT制度）等に加え、 ・ペロブスカイト、浮体式洋上風力、水電解装置等のサプライチェーン構築支援と、ペロブスカイトの導入支援の検討（GI基金に加え、10年間で1兆円規模を措置）

「GX実現に向けた基本方針」（2023年2月10日閣議決定）より抜粋

【今後の道行き】：住宅・建築物	
■ 住宅・建築物の抜本的な省エネ（例、2030年新築住宅・建築物でZEH・ZEB水準の省エネ性能確保）を実現するため、今後10年で建築物省エネ法等による規制の対象範囲拡大・強化を実施していく。	
目標・戦略	2023 2024 2025 2026 2027 2028 2029 2030 2030年代 2040 2050
2050年カーボンニュートラル実現に向けた、住宅・建築物の省エネ化の追求 ZEH・ZEB水準の省エネ性能の高い新築住宅・建築物の普及 省エネリフォームの拡大 断熱窓等の建材における省エネ基準の強化、導入の促進 実証・普及拡大を通じた建材の性能向上 木材トランシーバー基準見直し等の規制措置の強化 木造建築物の普及・拡大	2030 2050 新築住宅・建築物で、住宅・建築物のストック平 ZEH・ZEB水準の 均てZEH・ZEB水準の 省エネ性能確保 省エネ性能確保

内閣官房：2024年5月13日 GX実行会議（第11回会議資料より抜粋）

※ 日本の再エネ拡大の切り札、ペロブスカイト太陽電池とは？

① 低コスト化が見込める

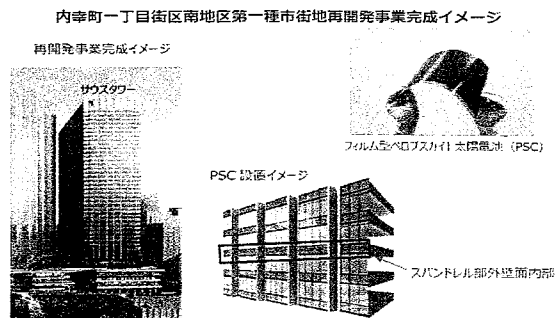
材料をフィルムなどに塗布・印刷して作ることが可能。製造工程が少なく、大量生産ができるため、低コスト化が見込める

② 軽くて柔軟

シリコン系太陽電池は重くて厚みもあるのに対し、ペロブスカイト太陽電池は折り曲げやゆがみに強く、軽量化が可能

③ 主要材料は日本が世界シェア第2位

主な原料であるヨウ素は、日本の生産量が世界シェアの約3割を占め、世界第2位（第1位はチリで約6割）他国に頼らず安定確保が可能



経済産業省 資源エネルギー庁：ホームページより

参考資料

④ 請負契約の見直し

「第三次・担い手3法」の成立、「工期に関する基準」の改正がされたことを受け、請負契約の透明化と適切なリスク分担の実現により受発注者間の対等な関係を構築します。今年度は、標準となる工事契約書を作成し、これをもとに会員での展開を図るとともに、施工環境の改善などを関係機関へ要請します。

第三次・担い手3法（令和6年改正）の全体像			
インフラ整備の担い手・地域の守り手である建設業等がその役割を果たし続けられるよう、担い手確保・生産性向上・地域における対応力強化を目的に、担い手3法を改正			
担い手確保	処遇改善	公共工事業品質確保法等の改正 ●賃金支払いの実態の把握、必要な施策 ●能力に応じた処遇 ●多様な人材の雇用管理の改善	政府提出 建設業法・公共工事入札適正化法の改正 ●標準労務費の確保と行き渡り ●建設業者による処遇確保
	価格転嫁（労務費へのしわ寄せ防止）	●スライド条項の適切な活用（変更契約）	●資材高騰分等の転嫁円滑化 - 契約書記載事項 - 受注者の申出、誠実協議
	働き方改革・環境整備	●休日確保の促進 ●学校との連携・広報 ●災害等の特別な事情を踏まえた予定価格 ●測量資格の柔軟化【測量法改正】	●工期ダンピング防止の強化 ●工期変更の円滑化
生産性向上	地域建設業等の維持	●ICT活用（データ活用・データ引継ぎ） ●新技術の予定価格への反映・活用 ●技術開発の推進	●ICT指針、現場管理の効率化 ●現場技術者の配置合理化
		●適切な入札条件等による発注 ●災害対応力の強化（JV方式・労災保険加入） ●発注担当職員の育成 ●広域的な維持管理 ●国からの助言・勧告【入契法改正】	（参考） ◇公共工事業品質確保等の改正 ・公共工事を対象に、よりよい取組を促進（トップアップ） ・誘導的手法（理念、責務規定） ◇建設業法・公共工事入札適正化法の改正 ・民間工事を含め最低ルールの底上げ（ボトムアップ） ・規制的手法など

国土交通省：ホームページ(第三次・担い手3法)より

改正法の試行に向けたロードマップ

	2024年 ～5月	6月	9月	12月	2025年 4月		12月
全体関係		(仮)法律公布	3月施行	6月施行			1.5年施行
労働者の処遇改善		中建华WGにて「労務費の基準」作成					
ガイドライン・約款			大臣の調査権限	処遇確保努力義務	ガイドライン等改正 （見積りの取扱い、価格ダンピング違反の取扱い等）		目標規制
政省令	省令整備 （本法の施行期日の決定（施行期日の決定と建設改革の促進等）等も決定予定）		労務費基準勧告権限		政省令整備 （見積りに関する「労務費等の取扱い」等）		価格ダンピング規制
資材高騰に伴う労務費へのしわ寄せ防止		標準約款改正 （労務費の取扱い等）		変更条項記載の義務化			
ガイドライン		ガイドライン等改正 （リスク情報の取扱い等）		リスク通知と協議の義務化			
省令	省令整備 （リスク情報の取扱い等）						
働き方改革と生産性向上		ICT指針作成 （ICT活用推進の取扱い等）		技術者配置規制の合理化			
ガイドライン・指針		ガイドライン改正 （現場技術者の確保等）		ICT現場管理努力義務化			
政省令	政省令整備 （現場技術者の確保等）						工期ダンピング規制

国土交通省：最近の建設業を巡る状況について【報告】資料より抜粋

※ 当協会の「働き方改革の推進申入れ」活動について

今年度においても「働き方改革の推進申入れ」活動を次の内容により推進します。第二弾として、他設備工事団体との働き方改革の推進に関する共同要請を（一社）日本空調衛生工事業協会と実施します。

1. 「目指せ！ 建設現場 土日一斉閉所」運動の継続実施のお願い

2. 後工程への配慮のお願い

①適正な工期の確保・工程の遵守

- ・完全週休二日の実施可能な工期の確保、資器材の調達に要する期間、総合試運転調整等を考慮した適正な工期の確保
- ・総合工程表に建物躯体の完成時期、受電の日等の重要な節目を明記
- ・工程の遵守と、工程の遅れが生じた場合の適切な工期延長、契約金額の変更等の発注者との協議実施

②長時間労働の是正

- ・設計仕様の早期決定、各種決め事のスケジュール遵守と早期承認
- ・各種会議、打合せの従業時間内での実施等、作業の一層の効率化

③対等な契約関係の構築

- ・労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針の遵守
- ・パートナーシップ構築宣言と実効性の向上

総合工程表（イメージ）

